

平成26年度 学校自己評価システムシート（私立 立教池袋高等学校）

| | |
|--------|--|
| 目指す学校像 | 生き方にテーマを持ち、知恵と愛を備えた教養人、世界平和にも貢献できる人間を育てる |
|--------|--|

| | |
|------|---|
| 重点目標 | <p>① テーマを持って真理を探究する力を養うために、神様から与えられた自らの力を発見し、強い意志を持って幅広い分野で活躍できる人材の育成を試みる。そのために、基礎学習力を養い、豊かで的確な日本語を使う力、生きた英語を使う能力を育成する。</p> <p>② 共に生きる生活の基本に祈りを置き、様々な行事を通じた人との繋がりの中で、互いに理解し合い、共に助け合って共同生活を豊かにすることができる能力を養う。</p> <p>③ 教育環境の整備に努める。</p> |
|------|---|

| | | |
|-----|---|--------------|
| 達成度 | A | ほぼ達成 (8割以上) |
| | B | 概ね達成 (6割以上) |
| | C | 変化の兆し (4割以上) |
| | D | 不十分 (4割未満) |

| 学校自己評価 | | | | | | | |
|--------|--------------|--------------------------|---|--|--|-----|---|
| 年度目標 | | | | | 年度評価 (8月31日現在) | | |
| 番号 | 課題 | 評価項目 | 具体的方策 | 方策の評価指標 | 評価項目の達成状況 | 達成度 | 次年度への課題 |
| ① | 基礎学習力の強化 | (1) 選択や補習の充実と実践 | (1) 学校評価アンケートの実施 教科担当者の個別指導 | (1) 肯定的評価の割合80% 教科面接指導の実施 | (1) 肯定的評価は生徒=66%、保護者=79% 前期末・中期末に面談を実施 | B | (1) 生徒のコースに合った講座の開設 |
| | 教育目標へのアプローチ | (2) 家庭学習の奨励 | (2) 課題(宿題)の提示と確認 | (2) 的確な指示が提示されたか。 | (2) 全学年で実施 | A | (2) より学習効果の高い課題作り |
| | 自主的・主体的活動の実践 | (3) キャリア教育の実践 | (3) 職業理解とプレゼンテーション能力育成 進路指導 | (3) プログラムの実施 | (3) 高1特別プログラムで実施 学部学科説明会やオープンキャンパスの実施 | A | (3) 訪問先の企業確保と調整 オープンキャンパスの積極利用 |
| | 授業方法の改善 | (4) テーマ設定の為の環境作り | (4) 卒業研究論文の実施 校外学習の実施 大学との連携教育 | (4) 実施 実施 大学教授による特別講座実施 特別聴講制度の利用者数 | (4) 高3全員が提出 高2沖縄・九州・四国・道東の4コースで実施 6教室・6教授により実施 高校3年生8名が12講座で利用 | A | (4) 論文指導の充実と評価法の検討 現地学習の充実 |
| | | (5) 生徒会・学友会活動の実践 | (5) 活動のサポートと予算措置 体育祭の実施 R.I.F.の実施 | (5) プログラムの実施と予算計上 | (5) 大型黒板消し・掲示板・ゴミ収集カートの導入 初めての4クラス体制をグラウンドで実施 多くの来場者に恵まれ、盛大に実施 | A | 受講可能な講座の拡大 (5) 中高それぞれ独自の行事を模索 競技種目の工夫と実践 展示・出展団体の調整と指導 |
| | | (6) 授業の客観的評価 | (6) 授業アンケートの実施 | (6) 実施率100% | (6) 実施率95% | A | (6) 改善への具体的取り組みの策定 |
| ② | 教育理念の理解と実践 | (1) キリスト教教育の理解と実践 | (1) 学校評価アンケートの実施 | (1) 肯定的評価の割合80% 礼拝の実施、聖書の授業実施 | (1) 肯定的評価は生徒=70%、保護者=96% 全学年で実施 | A | (1) 継続して実施 |
| | 学校行事の充実 | (2) 異文化体験 | (2) 国際交流プログラムの実施 (アメリカキャンプ、英国語学研修) | (2) アメリカキャンプの実施 英国語学研修の実施 | (2) スティーブンス=18名、ヒューストン=16名 英国語学研修=14名 | A | (2) 参加希望者の増加に対応 広報の見直し |
| | 地域連携の強化 | (3) ボランティア活動の充実 | (3) フィリピン薬品支援の実施 ワークキャンプの実施 施設訪問の実施 保育園ボランティアの実施 学院ボランティアへの参加 | (3) フィリピン薬品支援の実施 ワークキャンプの実施 施設訪問の実施 保育園ボランティアの実施 清里環境ボランティアの参加 | (3) R.I.F. でバザーを実施し薬品支援を行った ワークキャンプ参加者=高山6名、榛名2名、仙台7名 収穫感謝礼拝時に宗教委員会の施設訪問実施 高校生=25名参加 高校生=4名、中学生=4名参加 | A | (3) 継続して実施 参加者の拡充 |
| | | (4) 地域との交流 | (4) 豊島区とごみゼロ運動、イベント大会、 保育園ボランティアで提携 | (4) プログラムの実施 | (4) 生徒会と有志が参加 | A | (4) 継続して実施 |
| ③ | 心と体のサポート体制 | (1) 生活環境の見守り 特別支援体制作り | (1) 相談室体制での相談と実践 いじめ防止基本方針の策定 | (1) カウンセラーと相談室の連携 学校基本方針の作成 | (1) 週1~2回相談室委員会を実施 9月に完成 | A | (1) より広い相談体制の構築 |
| | 保護者との協力体制の確立 | (2) 保護者との情報交換体制作り | (2) 学校評価アンケートの実施 ホトナギ・PTA会報等の発行 父母教室や生徒の健康を考える会 保護者会、授業公開の実施 | (2) 肯定的評価の割合80% 発行 実施(含父母教室の外部開放) 実施 | (2) 肯定的評価は保護者=83% ホトナギ全5号、PTA会報年度末に発行 父母教室7回、健康を考える会3回の開催 保護者会全クラスで、公開授業一部学年で実施 | A | (2) 父母教室の充実と広報戦略 参加者の拡充 授業参観、公開授業の実施増 |
| | 学校安全への取り組み | (3) PTA活動のサポート | (3) PTA関係行事への参加 | (3) 各部行事への参加 | (3) タベの会・親善スポーツ大会・講演会・模擬店等、各部行事に積極的に参加 | A | (3) 継続して参加 |
| | | (4) 危機管理と安全対策の実施 | (4) 危機管理マニュアルの点検・再考 避難訓練の実施 | (4) 現状に即した点検・整備の実施 実施 | (4) 関係各部署で分析を開始し再考案を検討中 5月地震、9月火災の避難訓練を実施 | B | (4) 自然災害や防犯に備えた安全確保 と連絡手段の見直し |
| | | (5) 施設設備の改修工事と将来計画 | (5) 施設改修計画の策定 | (5) 施設の安全確認と改修計画立案 | (5) インспекションの実施 年次計画を含めた改修案の作成 | A | (5) 計画の遂行 |